

東京都知事

舛 添 要 一 様

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸の
早期事業化について（要望）

平成27年3月23日

瑞 穂 町
瑞穂町議会

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸の早期事業化 について（要望）

早春の節、貴職におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素、瑞穂町の行政運営につきまして、格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、統計では通勤・通学等により、毎日2万3千人以上が瑞穂町に出入りしております。さらに、町では、殿ヶ谷、箱根ヶ崎駅西の2地区の土地区画整理事業等による商工業・居住施設の誘導を図るための整備を着々と進めるとともに、栗原地区の事業認可に向け、基本計画を作成しております。また、殿ヶ谷地区への大型商業施設の進出のほか、町内最大企業の施設拡充も進められており、今後更に交通需要が増えるものと考えられます。しかしながら、町を東西に横断する鉄道はなく、唯一のJR八高線は運行本数や車両の数が少なく、単線であるため増発等も困難であり、同線のみでは通勤・通学など住民の交通手段として十分とはいえない状況にあります。

このような中、多摩都市モノレールは、各種営業努力により1日平均乗客数も6年連続で12万人を上回り、昨年度は13万人に迫る乗車数を記録しました。また、運輸収入、営業収益ともに過去最高を更新するなど、地域住民の足として定着してきたことは喜ばしいことでもあります。

さらに、新青梅街道拡幅再整備事業も着手されたことから、沿道の都市計画の変更も見据えたまちづくり計画の推進や武蔵村山市との多摩都市モノレールの延伸に向けた共同研究の進展など、多摩都市モノレール延伸に向けた機運も高まり、町民は箱根ヶ崎

方面への延伸早期実現につながることで大きな期待を寄せております。

多摩都市モノレールの延伸は、多摩地域の軌道系交通ネットワークが充実し、地域の交通利便性が格段に向上することにより人の交流や地域の発展に大きく寄与するとともに、地球温暖化防止に向けた低炭素都市への転換が求められる中、環境負荷の低減に寄与するものと確信しております。

なお本年は、運輸政策審議会答申第18号に「2015年までに整備着手することが適当である路線」と位置付けられた目標年次を迎えます。また、国の交通政策審議会の鉄道整備に関する答申が予定されています。先日発表された「広域交通ネットワーク計画について（交通政策審議会答申に向けた検討の中間まとめ）」では、整備効果が高いことが見込まれる路線として、多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸が位置付けられました。新たな国の答申への位置づけ及び早期事業化について、引き続き最大限の努力をすることを要望いたします。

平成27年3月23日

東京都西多摩郡瑞穂町

瑞穂町長 石塚 幸右衛門

瑞穂町議会

議長 石川 修

瑞穂町議会公共交通特別委員会

委員長 小池 信一郎